

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に業務を継続できるよう、マニュアルを把握する。	業務継続計画の作成	職員全体で話し合い、計画内容を作成する。	3か月
2	37	日常生活の中で、入居者本人が希望を表せるようにする。	入居者本人が自ら希望を表せるように、職員がコミュニケーションを取れるようにする。	職員が認知症の方の中核症状を今より理解し、コミュニケーション要素を学ぶ。	12か月
3	7	虐待防止の徹底をする。	高齢者虐待の「不適切ケア」の確認をする。	外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、職員全体で勉強する。	8か月
4	34	急変や事故発生時の備えが必要である。	ノロウイルス等の感染症の防止や、起こった時の対応について再確認する。	感染症が起こった時の状態を想定して訓練をする。	12か月
5	49	日常的な外出支援を行う必要がある。	前年より外に出る機会を増やす。	感染症等の状況を把握しながら、暖かい日は外出行事等を増やす。	11か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の職員の対応について、マニュアルを把握し、行動できるか再確認の必要がある。	災害時の対策・対応を強化する。	非常用品の見直し、購入 ライフラインが停止した際の訓練の実施 (非常用電源の確認・調理の訓練)	12か月
2	36	職員の何気ない言葉遣いであっても、入居者にとってはプライバシーを傷つけたり、誇りを損ねたりすることがある。	職員の入居者に対する話し方、態度に注意する。 個人を尊重し、尊厳を守る話し方、声かけを行っていく。	適切ではない言葉遣いの時は、職員間でお互い注意し合う。 入居者の個人情報の取り扱いに気をつける。	12か月
3	41	時間を決めて水分補給を行っているが、水分補給が進まない方がいる。	水分補給の際は、必ず摂取してもらえるようにする。	一人ひとりの好みに合わせた物を提供する。 声かけを工夫し、摂取していただく。	12か月
4	43	排泄動作の変化や排泄パターンの変化で、個々の排泄支援が把握しにくい状況である。リハビリパンツやパットの使用量が増える。	個々の排泄パターンを把握する。 パットの使用量を減らせるように支援する。	排泄チェック表を活用して、排泄状況を把握し、排泄動作の変化があった際は随時話し合いを持ち、自立に向けた支援を念頭に取り組む。	12か月
5	55	入居者の方にも物が使いやすい環境にする。	落ち着いて安全に過ごしやすい環境にする。 積極的に行動できる環境作りを行う。	入居者にとって見えにくい箇所等ないか、入居者の目線になって、使いやすく、わかりやすい表示を行う。	12か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。